

平成 19 年 2 月 23 日

各 位

会 社 名 株式会社 ク レ オ  
 代表者名 代表取締役社長 土屋 淳一  
 (JASDAQ・コード 9 6 9 8)

問合せ先 執行役員管理本部長 石塚 敏明  
 TEL 0 3 - 3 4 4 5 - 3 5 0 0

平成 19 年 3 月期 (単独・連結) 業績予想の修正について

平成 18 年 10 月 27 日付当社「平成 19 年 3 月期中間決算短信 (連結・単独)」において発表いたしました平成 19 年 3 月期 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日) の業績予想を下表の通り修正いたします。

記

1. 業績予想について

- ①平成 19 年 3 月期単独業績予想数値の修正 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)  
 (単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期利益
前回予想 (A)	10,500	0	0
今回修正 (B)	10,500	△1,050	△1,050
増減額 (B-A)	0	△1,050	△1,050
増 減 率	0%	-%	-%
前期 (平成 18 年 3 月期) 実績	10,579	△90	△162

- ②平成 19 年 3 月期連結業績予想数値の修正 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)  
 (単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期利益
前回予想 (A)	17,000	100	0
今回修正 (B)	17,000	△950	△1,100
増減額 (B-A)	0	△1,050	△1,100
増 減 率	0%	-%	-%
前期 (平成 18 年 3 月期) 実績	14,641	1	△209

2. 修正理由

システム開発事業はヤフー向け受注が堅調に推移するとともに、プロダクトサービス事業においても、毛筆ソフト市場が縮小するなか販売シェアを維持することができました。また、サポート&サービス事業は既存顧客の受注が拡大したことにより、3事業についてはおおむね予定通りの業績を見込んでおります。

しかしながら CBMS 事業におきましては、以下の3つの理由により予定と見通しが大幅に乖離する見込みとなりました。

- ①OEM を中心とする大型商談を下期にかけてプロジェクト化して集中的に取り組んでまいりましたが、今年度末までのクローズにはいたらず、商談が長期化する見込みと

なりました。

- ②事業の性質上、期末月にライセンス売上が集中する傾向にあり、計画上也期末月に偏重してライセンス売上を見込んでおりましたが、商談の長期化による受注ボリュームの不足及び来期への一部延伸などにより計画を下回る見通しとなりました。
- ③上記①と②の事情を勘案し、ソフトウェア資産を前倒しで償却しました。

このような状況のもと全社的な経費削減等を努力いたしましたが、CBMS 事業の影響により経常利益、当期利益とも 1,050 百万円を減額し、売上高 105 億円、経常損失及び当期損失は 1,050 百万円となる見込みであります。また、連結業績につきましても上記と同様の理由により、売上高 170 億円、経常損失 950 百万円、当期損失 1,100 百万円となる見込みです。

(今後の方針)

次期の CBMS 事業の見通しにつきましては、今期の営業活動の効果による繰越案件増加、更なる営業・プロモーションの強化による収益増加が見込まれます。また、ソフトウェア資産の償却負担が減少することによる費用減少が予測されます。一方で、引き続き安定品質を維持するために品質管理体制強化の費用発生が予測されます。開発に関しましても定期的機能強化を継続的にいたしますが、大規模な開発投資は当面発生しないため、CBMS 事業としてはプラス要因が費用の増加を上回る見通しで事業収益は大幅に改善すると見込んでおります。

今年度は大変厳しい見通しとなりますが、年度末まで回復に向けて全力で努力をしてまいります。

※上記業績予想及び来期以降の予測につきましては、発表日現在において入手可能な情報から、当社の経営者の判断に基づき作成しております。したがって、実際の業績は様々な要因により本内容とは異なる結果となり得ることもご承知おきください。なお、来期業績予想につきましては、数値がまとまり次第、開示させていただきます。

以上